

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

（領域ごと）

- | | |
|------------------|-------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 良好な結果であった |
| ②情報の扱い方に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ③話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ④書くこと | 良好な結果であった |
| ⑤読むこと | 良好な結果であった |

（問題形式）

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

もっとも正答率の高かった設問

…送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる内容

もっとも正答率の低かった設問

…図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる内容

分析

- 1 傾向…どの領域・問題形式についても全国平均を大きく上回っているが、記述式での無解答率が高い。
- 2 成果…知識としての習得が高く、記述式においても前向きに書こうとする意欲が見られた。話型を示すと、普段から使おうとする様子が見られ、その力が学力としても成果として表れてきている。
- 3 課題…記述式の設問では、時間がたりず取り組み切れなかった様子も見られた。複数の資料から情報を読み取ったり、読み取ったことを条件に合わせてまとめたりする力に課題があり、取り組むのに時間を要したと考えられる。また、条件作文の形式や記述そのものに慣れていなかったり、条件を読み飛ばしてしまったりする様子も見られた。
- 4 授業での重点的な取組み
 - ・授業の中で自分の考えを説明したり、作文（条件付き・短文・日記）に取り組んだりする機会を増やす。
 - ・書くスピードを意識させるために、時間を計ったり書く機会を増やしたりする。
 - ・書き方のモデルを示し、毎時間振り返りを書くことで書くことに対する苦手意識や抵抗感を減らしていく。
 - ・語彙力、表現力を培うために、国語・漢字辞典の活用や、読み聞かせや読書の時間の設定を積極的に行う。
 - ・様々な教科で日ごろから図やグラフの読み取りをしたり、意見をまとめたり、主張をする客観的資料の提示の仕方を考えさせる授業づくりをする。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ①数と計算 | 大変良好な結果であった |
| ②図形 | 大変良好な結果であった |
| ③変化と関係 | 大変良好な結果であった |
| ④データの活用 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 大変良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

もっとも正答率の高かった設問

…伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる内容

もっとも正答率の低かった設問

…高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる内容

分析

- 1 傾向…どの領域・問題形式についても全国平均を大きく上回っていて、基本的な力はしっかり習得できている。
- 2 成果…低学年からの積み重ねができている、どれも大変よくできている。もっとも正答率の低い問題においても、全国平均と比べると大きく差をつけてよくできている。
- 3 課題…図形の問題では、読み飛ばしやとらえ違いが見られ、出題パターンが異なると理解している問題でも誤答してしまっている。応用力に課題が見られ、問題の示され方が違って活用できる力の育成や、身近な物と算数の世界をつなげていくことが必要である。
- 4 授業での重点的な取組み
 - ・基礎基本の学力の定着
 - ・ノートの使い方や式の書き方などを揃えるなど、ユニバーサルデザインを意識した授業づくりを学校全体で行う。
 - ・知識だけでなく内容を本当に理解するために、ペア学習やグループ学習を取り入れ、自分の考えを相手にわかるように説明する機会をつくる。
 - ・学習したことを身の回りのものや生活の中で使われていないかを振り返る時間を設ける。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

例年通り、国語・算数共に全国平均を大きく上回る傾向で推移している。算数においては、全ての領域・設問形式において大変良好な結果であった。

無解答率についても、全国平均を大きく下回り、良好な傾向が続いている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層は、全国平均を大きく上回る傾向が続いている。

学力低位層は、全国平均を大きく下回る傾向が続いている。

エンパワー層についても、全国平均を大きく下回る傾向が続いている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

1 基礎学力の定着

- ①朝の時間に読み聞かせをすることで、子どもが本に興味を持てる素地を育んでいく。
- ②本好きの児童を増やし、読みを深めるために、今後も図書情報部の本紹介の活動や、図書委員会の活動を継続し、本を身近に感じて興味をもつきっかけを作っていく。
- ③自分の考えを発表できなかったとしても、ノートに書いているものを教師が確認することで、児童が自信をもって取り組めるようにしていく。

2 言語活動の充実

- ①どの授業でも、ペア→班→全体での交流の時間を持つようにして、一人ひとりの児童の意見が授業に反映されるように授業づくりを行っていく。
- ②単元計画を立て、学習したことをまとめたり、学んだことを発表したりする活動を設定する。

3 授業方法・内容の工夫と改善

- ①めあてを焦点化し、見通しをもった授業でみんなが考えることを共有できる授業づくりを行う。
- ②振り返りの時間を取ることで、授業の理解度の確認を行う。
- ③45分の授業の中で、インプットとアウトプットの時間を設ける。
- ④全ての児童がわかるためにユニバーサルデザインを意識した授業づくりをしていく。

4 学校全体としての取組み

- ①時間意識を持たせた課題への取り組み方を模索していく。
- ②ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと、身長や特性に応じた机椅子の高さ調節などの徹底といった学習環境づくりを継続していく。
- ③教室に入りにくい児童も学習に取り組んでいけるように、別室の場所に登校しながらスモールステップで、自分の思いや自信をもてる環境づくりを行っていく。
- ④情報スキルの向上とともに、情報モラルを高めるため出前授業を行い、情報との付き合い方を指導していく。

5 学習に向かうための力の育成

- ①目的意識をもち、茨木つ子運動「はくちょう」などに取り組み、姿勢保持して学習に集中できる児童を育成していく。
- ②キャリアパスポートを通して自分のことをふりかえり“がんばり”“できたこと”を確認し、自信につなげていく。
- ③学習に集中できる体調を整えるために、自らの生活習慣に興味をもち、より良い習慣が身につくように指導していく。
- ④教師からだけでなく、児童同士でもできたことや取り組んだことを褒めたり認めたりする機会を増やすことで、自己肯定感を高めていく。